

表現運動の指導法の構想

—ロイロノート共有機能を用いて—

遠藤勇太・小野寺洋平・渡辺清子・菅原純也*, 佐々木篤史・熊谷晴菜**, 清水茂幸・清水将***

*岩手大学教育学部附属小学校, **岩手大学附属中学校, 岩手大学***

(令和5年3月1日受理)

1. はじめに

小学校体育科における表現運動系の領域は、低学年「表現リズム遊び」、中・高学年「表現運動」で構成されている。

表現リズム遊びは、「表現遊び」及び「リズム遊び」で内容を構成されており、表現運動は中学年を「表現」及び「リズムダンス」で、高学年を「表現」及び「フォークダンス」で構成している。

体育の授業において表現運動の指導を苦手としている教師は多く、小学校教師の表現運動の実態については、「運動領域で最も指導しにくい」という結果も出ている。その理由として、「教師自身の経験不足」「指導の経験不足でやり方がわからない」「うまく指導できない」などが挙げられている。このように、表現運動系について前向きな指導を行っている教師は少なく、「運動会のダンス」のみを表現運動系として指導している場合もある。

表現運動の指導に関して、苦手意識をもったとしても、必要性は感じている教員は多いはずである。しかし、様々な理由により表現運動系の学習がなされていないとすれば、児童に加え、指導者にとっても辛い問題であると考えられる。前述したが、表現運動系は多くの教師が指導しにくいと感じており、「必要性を理解していても指導できない」状況にあると考えられる。このような状況の中で、誰もが簡単に、そして楽しく児童と学べる表現運動の授業構想が望まれている。

そこで、本プロジェクトでは、表現運動の授業を、「誰もが簡単に指導できる方法」を構想するため、表現運動のよさでもある創造性や協同性のある学びとなるように、ロイロノートに新設された児童間の考えを共有できる機能を用いていく。

2. 方法

本プロジェクトは、岩手大学教育学部附属小学校5年生を対象に進める。教師は、形成的授業評価から児童の学びの実態を知るとともに、ロイロノートの提出機能を用いて動作化したものを収集し、児童の変容をデジタルポートフォリオとして蓄積する。そして、効果的な指導法や単元デザインについての要素を明らかにする。調査の結果は、児童の記述した内容を検討するものとした。具体的には、以下の手順で行う。

- ロイロノートの機能を使用する。考えや表現についての変容が見えるように、毎時間書き加えていく。
- 単元前、単元終了後に児童にアンケートをとり、児童の変容を見取る。
- 授業後に児童に振り返りを書かせ、その変容を見取る。
- 授業前に前時の振り返りと授業内容を確認する。それを基に本時の課題を考えていく。

3. 結果と考察

(1) 現状の把握

○アンケート結果

児童の実態と変容を見取るため次のアンケートを行った。

- ① 表現運動は好きですか。
- ② ①の理由を自由に書きましょう。
- ③ 表現運動をしていて、楽しいと感じることはどんなことですか。

単元前に行ったアンケート結果は以下の通りである。

好き	16名
どちらかという好き	15名
<ul style="list-style-type: none"> ・表現するものになりきるとおもしろいから。 ・自由に運動できるから。 ・動きを考えるのがおもしろいから。 ・協力して運動をつくりあげるのが楽しいから。 ・踊るのも見るのも楽しいから。 	
どちらかという嫌い	19名
嫌い	7名
<ul style="list-style-type: none"> ・どう動けばいいのかわからないから。 ・イメージがわからないから。 ・動きやイメージが運動につながらないから。 ・自分の動いているのが見えないから合っているのか分らないから。 ・友達と合わせるのが難しいから。 ・恥ずかしいから。 ・表現するのが苦手だから。 	

このアンケート結果から、半数近くの児童が表現運動に「どちらかという嫌い・嫌い」というマイナスなイメージをもっていることが分かった。

また、「好き・どちらかという好き」というプラスのイメージをもっている児童は、半数以上おり、その理由として、「表現のおもしろさ」や「運動の自由さ」「仲間との運動の創造」などが挙げられた。

(2) 授業構想

以上の点を踏まえ、マイナスのイメージをもっている児童の困り感に焦点を当て授業を構想した。マイナスなイメージをもつ児童が表現運動の授業を受ける際に感じている困り感は以下のようなものが挙げられた。

- ・イメージがわからない。
- ・友達の真似になってしまう。
- ・イメージが動きにつながらない。
- ・あるテーマを表現するときに、よくありがちな動きしかできない。(テーマ「花火」両手を広げてジャンプのような動きにしかならない。)

これを整理すると、

- ①友達の真似やよくありがちな動きにしかならない。
- ②テーマに沿ったイメージがしにくい。
- ③イメージに合った動きがわからない。

以上の3点が児童の困り感になると考えた。

これらを踏まえ、以下の3点を重点として授業の構想を図った。

- ①児童がイメージしやすい「テーマ」を複数設定し、児童に選択させること。
- ②ロイロノートを使用して、テーマをもとにイメージした動きを組み合わせで一連の表現をつくること。
- ③テーマやイメージした動きなどをロイロノートで共有する場面を設定すること。

(3) 授業実践について

①単元名

みんなでつなげて表現しよう！

②児童について

男児24名 女児33名 計57名

③単元の目標

【知識及び技能】

いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

【学びに向かう力、人間性等】

運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりする。

④運動の特性

ア. 一般的な特性

・思い描いたイメージを体で表現する楽しさや、友達と協力して動きを工夫しながら作品を創り上げる楽しさを味わうことができる。

・ゆったりした動きや激しさや動きの急激な変化など、多様な動きを体験することができる。

・イメージや感情を表現するために、動きを選び、構成を考えて、グループの特徴を生かす動きをつくることができる。

イ. 児童から見た特性

・実際の経験や映像資料などから、激しさ、大きさ、スピードの変化などに気づき、自然の様子のイメージがもてる運動である。

・友達とお互いの動きを見合いながら、ストーリー化などの工夫や動きの多様さに気づき、高め合うことができる。

・グループで協力して、一つの作品を創っていくことで、達成感を味わうことができる運動である。

⑥目指す児童の姿

【第3時】

グループで表現の仕方を工夫すると楽しさが増すことに着目し、ひと流れの動きで運動することを楽しんでいる姿

【第4時】

動きの変化をつけることの面白さに着目し、メリハリをつけたりくずしを入れたりして工夫して表現を楽しんでいる姿

【第5時】

友達と動きを見合うことでグループの動きが高まることに着目し、進んで友達とかかわろうとする姿

⑦単元計画

時間	内容
1	○オリエンテーション
2	○テーマを決める。 ○動きを確認する。 ・「はじめ—なか—おわり」 ・スピード変化 ・移動など
3	○動きを確認する。 ・動きの誇張 ・走る—止まる ・集まる—離れる ・動きのずれなど
4	○自分たちの表現をよりよくする。
5	発表会

(4) 実践の概要

①児童がイメージしやすい「テーマ」を複数設定し、児童に選択させることについて。

児童がイメージしやすいテーマを以下の5つと考え設定した。

・花火 ・風船 ・鳥 ・海の中 ・探検家

第2時にテーマを選ばせる時に、テーマに関わる映像を見せイメージをよりもちやすいように工夫した。以下はテーマを選ぶ時の教師と児童のやり取りである。

T: この映像をみてください。

—映像を見せる—

T: 今日は、今見た映像の5つの中から表現のテーマを決めます。

・花火 ・風船 ・鳥 ・海の中 ・探検家

T: このテーマを聞いて、どう思いますか。

C1: 簡単そう。

T: どうして?

C1: イメージしやすいから。

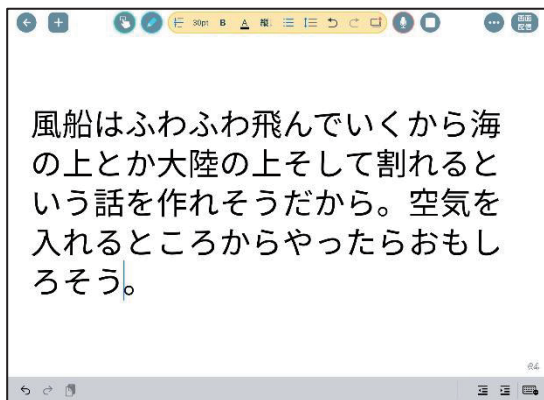
T: どうしてイメージしやすいの?

C1: 自分がやったことあるし、テレビとかでもみるから。

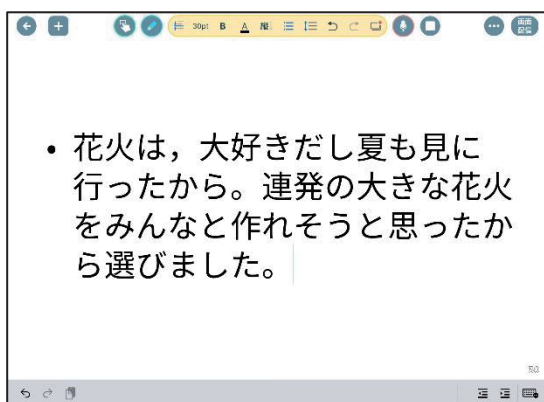
T: 他には、なにかありませんか
 C2: 盛り上がるどころとか、オチを考えやすそう。
 T: 例えば?
 C2: 風船なら割れるとか。
 C3: 探検家なら、宝を発見するとか。
 T: そうか。そのような物語になるように表現を考えていこう。
 T: このように最後に割れるとか。物語になるような展開を「はじめ—なか—終わり」でしたね。
 「はじめ—なか—終わり」になるように表現をつくっていこう。

以上のようなやり取りを行い、テーマを設定させた。授業の終わりにテーマを選んだ理由をロイロノートに書かせた。

【A児】



【B児】



身近にあるもの、イメージしやすいものをテーマとして提示し、選択させたことにより、児童たちは迷わずテーマを決めることができていた。本時で特に取り組ませたかった表現方法を考えるというね

らいを達成することができた。また、分かりやすいテーマであるため、「はじめ—なか—おわり」を早い段階から意識して表現を考えることができていた。

②ロイロノートを使用して、テーマをもとにイメージした動きを組み合わせで一連の表現をつくることについて

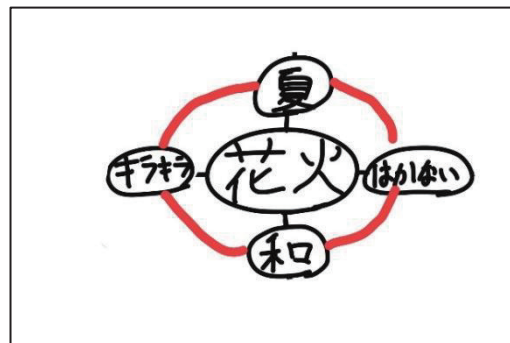
以下の手順で、テーマをもとに表現づくりを進めた。

- ・ 単元を通して考えるテーマを1つ決める。
- ・ 1つのテーマに対してイメージするものを4つ書く。
- ・ 1単位時間では、その4つの動きを組み合わせた表現を考える。
- ・ 次時には、前時のイメージを基に、さらに新たなイメージを考え、表現をつくる。

第2時から第4時まで、ロイロノートにテーマにかかわるキーワードを4種類書き出させ、それを関連付けて表現を考えさせた。前時のイメージをもとに、本時のイメージを広げていく。

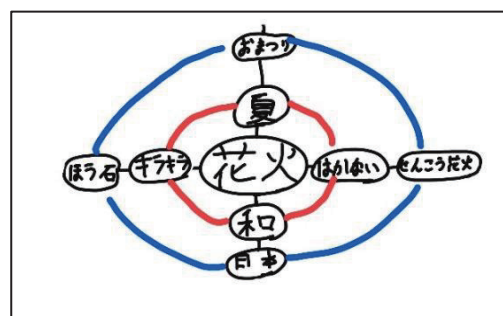
【第2時】

テーマと関連するキーワードを書かせる。



【第3時】

前時の4つの項目に関わるキーワードを書かせる。





グループをさらに2つ分け、ロイロノートの共有機能を使用しそれぞれの表現を表出させた。それらを組み合わせ新たな表現を創り出す姿を見ることができた。

(6) 指導前と指導後の変容について
アンケートの結果より

	授業前	授業後
好き	16名	21名
どちらかというが好き	15名	19名
どちらかという嫌い	19名	12名
嫌い	7名	5名

授業前よりも、授業後の方がプラスの考えをもつ児童が増えた。特に、「どちらかという嫌い」という児童のプラス域への移動が多く見られた。

- ・ロイロノートをみんなと見ながら進めたから、やるのが分かりやすかった。
- ・テーマとキーワードを動きにつなげることができた。
- ・ロイロノートにキーワードと録画をし、見たいときに見ることができたからよかった。
- ・自分が好きなテーマを選んだからイメージができた。

ロイロノートを活用したことにより、仲間同士でイメージを膨らませ、表現を創りだし、動作化することができた。このような考えの児童が多かった。

4. まとめ

本研究では、次のようなことがあきらかになった。

- ・ロイロノートの共有機能を活用したことにより、いつでも自分たちや他のグループの動きやイメージなどを見ることができた。そのことにより、学習内容に迷うことなく表現を生み出すことができた。
- ・ロイロノートの共有機能をもとに、具体的なテーマからイメージを膨らませ動きを考え出し表現を創り出すことができた。これまで多く見られてきた動きの真似やジェスチャーのような表現になるグループはなかった。
- ・ロイロノートの共有機能を使用することにより、グループをさらに小グループに分け同じテーマ・キーワードのもと、動きを考え出し、組み合わせる新たな動きを考えることができた。
- ・児童のアンケートからもロイロノートの共有機能は、表現を創り出すための一助となっていることが分かった。

謝辞

本研究を行うにあたり、多くの方々にご指導、ご支援をいただきました。ご協力いただいた先生方に感謝いたします。ありがとうございました。

引用文献

- ・福永 哲夫、山本正嘉 (2018) 『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』市村出版
- ・三浦 勇 (1986) 『だれにでもできる模倣・表現運動の指導』東洋館出版